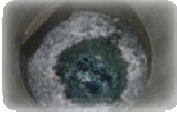


九州の大自然に触れ、九州の豊かな資源を再確認！！
すばらしいゲストをお迎えしての2日間となっておりますのでご期待下さい！！

<水の恵み体験ツアー>

■ 健軍水源地

熊本市の水道は、大正13年の通水開始以来、水源のすべてに地下水を使用していることが大きな特徴。熊本市は、現在1日に平均22万トンの水道水を供給しているが、このうちのおよそ4分の1にあたる6万トンを健軍水源地で賄っている。
今回は特別に自噴する井戸を見学！



■ 棚田

毎分20トンの湧水が育む「阿蘇水掛の棚田」。20年以上もの間放置されていた耕作放棄地。今回3.6haの棚田が水田となって蘇った。阿蘇は名水百選に選ばれた湧水を多数有する水に恵まれた地域である。復活した棚田から眺める「阿蘇五岳」の景観は絶景です。
地元婦人会による昼食にご期待！



■ 山吹水源

山吹水源の湧出量は毎分30トン。そのような大量の水が湧いているとは想像もつかないほど静かである。風がなければ水面は鏡のように木々を写しこみ、実に美しい光景を見せてくれる。阿蘇、九重の雄大な山々はこのようなオアシスを無数に提供してくれる。
まさに秘境、一見の価値あり。



<記念勉強会・基調講演 講師>

甲斐 隆博

(株)肥後銀行 代表取締役頭取



1951年生まれ。熊本市出身。慶應義塾大学卒業後、75年肥後銀行入行。01年取締役就任、09年6月に頭取就任。熊本経済同友会代表幹事、熊本県体育協会会長など公職を務める。同行は昭和62年「ふるさとの貴重な財産ともいべき地下水を枯渇と汚染から守ろう」と提唱。「肥後の水資源愛護賞」を創設し、地下水汚染防止・保全活動に取り組む個人・団体を毎年顕彰している。また同行は、創立80周年の記念事業として、阿蘇外輪山の麓に森林約52haを取得。「阿蘇大観の森」と命名、地元の協力のもと、同行グループ役員やその家族と一緒に毎年植樹を行っている。現在までの植樹本数は約10万本に達し、水源涵養林の保全・育成に取り組んでいる。さらに今年からは、理事長を務める公益財団法人肥後の水とみどりの愛護基金による耕作放棄地解消と地下水涵養を目的とした水田湛水事業への取り組みも開始した。「阿蘇水掛の棚田」と命名、同行グループ役員とその家族、地元の方々と一緒にボランティア活動にも積極的に参加するなど、ふるさと熊本の地下水保全に精力的に取り組む。

畠山 重篤

NPO法人森は海の恋人 代表



東北沖地震の津波による被害を受けた三陸リアス式海岸に位置する宮城県気仙沼湾で牡蠣や帆立の養殖業を営む。フランス・ブルターニュ地方やスペイン・ガリシア地方を訪ねた経験を経て、森、川、海の関係に目を向けた。89年に「牡蠣の森を慕う会」を仲間とともに立ち上げ、漁民による植林活動「森は海の恋人運動」を続けている。漁師たちが山に大漁旗を翻らせて木を植えるエピソードは小学校の教科書でも紹介された。代表をつとめるNPO法人森は海の恋人でもっとも力を入れているのが環境教育。全国から訪れる子供達を体験学習などで毎年500人受け入れ、現場で五感を通じて森と海のつながりを伝えていく。著書に『漁師さんの森づくり』（講談社）、『森は海の恋人』（文春文庫）、『リアスの海辺から』（文春文庫）、など。99年「みどりの日」自然環境功労者環境庁長官表彰。2000年環境水保賞受賞。2004年第52回日本エッセイスト・クラブ賞などを受賞。今年6月には森と海をつなぎカキを育むのは「鉄」だということから『鉄は魔法使い』（小学館）を出版。



<記念シンポジウム コーディネーター／パネラー>

田中 克 京都大学名誉教授、農学博士

30年以上にわたり有明海にしかないエツ・アリアケヒメシラウオ・ヤマノカミなどの特産稚魚の生態と、それを支える河口域生態系の仕組みを研究し続けてきた。2003年4月に森と海の現地教育研究施設を統合したフィールド科学教育研究センターの発足とともにセンター長就任。「森と海連続学」という新たな統合学問域を提唱してきた。お世話になった有明海と漁師さん達に恩返ししたいという思いから「有明海再生講演会」の発起人となる。また有明海再生プロジェクトでは講演会による啓発活動と同時に長期的視野で溶存鉄をキー物質として筑後川での森と海とのつながりが存在することの検証と「キレートマリン」による鉄分供給で微生物の働きが活性化させ、ヘドロ状の干潟が再生し海の生物のエサとなる植物プランクトンが増殖させる仕組みの解明を行っている。京都大学名誉教授。NPO法人森は海の恋人副代表。みらいの森と海研究会顧問。

畑明宏・はたあきひろ 氏

積水ハウス(株)設計部大阪設計室課長

会社員＋樹木医＋自給農民

1967年生まれ。宮崎大学農学部卒業後、91年積水ハウス(株)に入社。現在、同社設計部にて、全国の街づくりや商業ビル及び、マンションの企画開発にたずさわる。同社が生物多様性への配慮として推進する庭づくりや街づくり「5本の樹計画」の推進者。プライベートでは、家族5人分のお米と野菜を作り、ここ数年はほぼ自給している。NHK趣味の園芸『やさいの時間』番組テキストで連載中。著書に今年の5月発刊の「現役サラリーマンの自給自足大作戦・菜園力で暮らしが変わる」(家の光協会JAグループ)がある。原点は、小学3年生の時、祖母がくれたトマトの苗が見事に実り感動したこと。ライフワークは人と自然の橋渡し

小関 哲 氏 小さな世界学校代表

「小さな世界学校」は、豊かな自然文化や人のぬくもりが残る「日本の田舎」を教室とする、「都会や大学では学べない大切な何か」を訪れる人々に学んでもらうための新しいタイプの学校(私塾)です。多くの人々を地域に呼び込み都市住民に真の学び・癒しの機会を提供すると同時に、「地域への経済効果・経済外効果」を確保し都市と地域(自然)の架け橋として機能することのできる新しい職種(地域インフラ)が、いま求められていると感じます。

海外そして都会で過ごした学生生活を終え、故郷へ戻った24歳の夏から7年温かい故郷の人々と世界中の友人たちに支えられ、小さくも「本物の感動・確信」を感じられる仕事と生活を私たちは手に入れることができました。いま6月の美しき田畑では恵みが育ち、事務所の目の前の海で今朝獲ってきた魚を頂きながら、皆様と語り合える8月を楽しみにしています。